

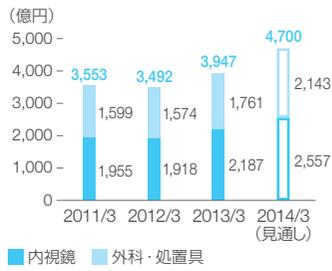
▶ At a Glance

事業セグメント	事業内容	2013年3月期事業の概況
<p>医療事業</p>  <p>▶ P.30</p>	<p>早期診断に大きな役割を果たし、グローバルでトップシェアを誇る消化器内視鏡事業を中心に展開。現在、低侵襲治療を担う外科・処置具分野、ならびに急速に経済発展する新興国での成長加速に注力</p>	<p>消化器内視鏡、外科・処置具の両分野において国内外で投入した新製品が収益に大きく寄与。売上高は前期比13%増、営業利益は同28%増、営業利益率は同2ポイント改善の22%と大変好調に推移し、会社全体の業績に大きく貢献しました。</p>
<p>ライフ・産業事業</p>  <p>▶ P.38</p>	<p>生命科学の最先端領域を支えるライフサイエンス分野は、業界トップクラスのシェアを誇る生物用顕微鏡を提供。産業分野では、工業用顕微鏡や、非破壊検査領域で社会インフラの安心と安全を支える工業用内視鏡・超音波探傷器等を提供</p>	<p>民間企業の設備投資抑制や政府予算執行の遅れ等により、前期比で減収減益となりましたが、ライフサイエンス、産業の両分野で新製品を投入したほか、生産拠点の合理化を進める等、次期以降への布石を着実に打ちました。</p>
<p>映像事業</p>  <p>▶ P.42</p>	<p>国内トップシェアを誇るミラーレス一眼カメラでは、小型軽量、映像品質、操作性を追求した「PEN」「OM-D」シリーズを提供。また、高級・高倍率ズームコンパクトなどオリンパス独自のデジタルカメラ、およびトップシェアを誇るICレコーダーを提供</p>	<p>低価格コンパクトカメラ市場の急激な縮小を受け、売上高は前期比16%減、営業損失は231億円を計上。一方、当社が注力しているミラーレス一眼は、国内を中心に売上を伸ばし前期比15%の増収となりました。</p>
<p>その他事業</p>	<p>骨補填材など医療・健康領域のほか、オリンパスビジネスクリエイティブ株式会社が展開する新事業関連など</p>	<p>非事業ドメインの整理に伴う不採算事業の売却・清算を進めたことで売上高は減収となったものの、営業損益は損失幅が縮小しました。</p>
<p>情報通信事業</p>	<p>当社は2012年9月28日付で、情報通信事業を日本産業パートナーズ株式会社へ譲渡したことに伴い、2013年3月期の同事業の収益は第2四半期までの累計となっております。そのため、売上高は前期比半減となる1,142億円、営業利益は17億円となりました。</p>	

沿革

				
<p>1919年 「株式会社高千穂製作所（顕微鏡の国産化を目的）」として創立</p>	<p>1920年 顕微鏡「旭号」発売</p>	<p>1936年 初のカメラ「セミオリンパス」発売、カメラ事業に参入</p>	<p>1949年 社名を「オリンパス光学工業」と改称 東京証券取引所に株式上市</p>	<p>1950年 世界で初めて実用的な胃カメラを開発</p>
<p>1968年 工業用内視鏡分野に参入</p>				

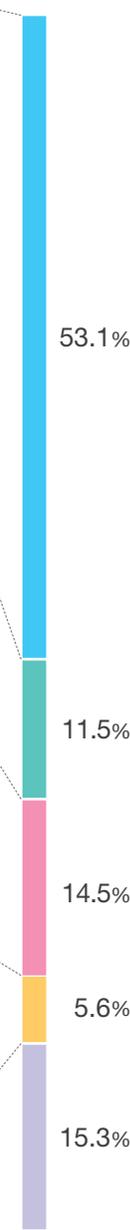
売上高



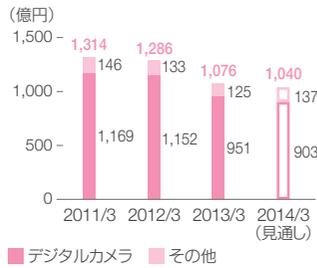
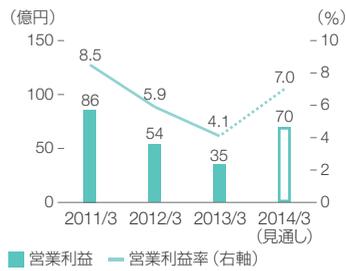
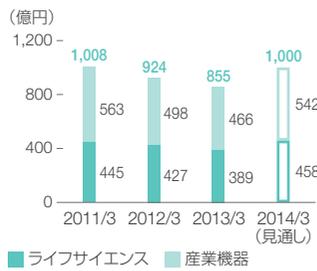
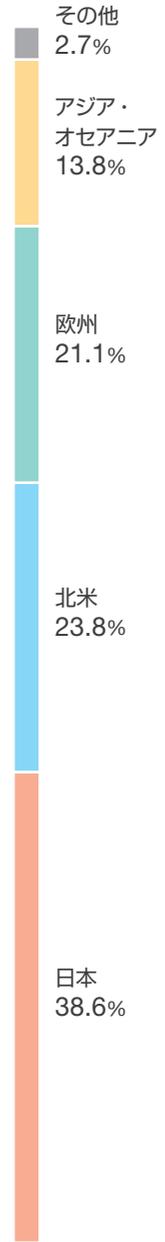
営業利益 / 営業利益率



売上高構成比



仕向地別売上高



1969年
世界初のマイクロカセットレコーダーを開発



1975年
医療用硬性内視鏡分野に参入



1996年
デジタルカメラ事業に参入



2008年
英国Gyrus Group PLC社を買収、医療事業における外科分野を強化



2009年
オリンパス初のミラーレス一眼を発売 (OLYMPUS PEN E-P1)